

席の移動のため、暫時休憩いたします。

〈午前１０時０３分 休憩〉

〈午前１０時０４分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

日程第３．一般質問

○議長（保坂 悟君）

日程第３、一般質問を行います。

発言通告者は１４人ですが、議事の都合により、本日５人、９日５人、１０日４人を予定しております。

一般質問の質問時間は答弁を除き、１人３０分であります。所定の時間内に終わるよう、質問・答弁とも簡潔に、要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるよう、通告外とならないよう、ご協力をお願いいたします。通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。〔１８番 田原 実君登壇〕

○１８番（田原 実君）

おはようございます。田原 実です。

１２月議会一般質問のトップバッターを務めさせていただきます。

以下、事前に提出しました発言通告書に基づき、１回目の質問をいたします。

１、医療と防災のまち、市民が安心して住めるまち糸魚川へ！

（１）医療対応について以下伺います。

- ① ５年後、１０年後の糸魚川地域医療体制を市民と共有できていますか。
- ② 市長が繰り返し答弁されてきた糸魚川市に必要な医療とは何ですか。
- ③ 市長が選挙公約とした看護師育成機関の設置は進んでいますか。
- ④ 薬草栽培で稼ぐ「医療のジオパーク」を進めてはいかがですか。

（２）防災対応について以下伺います。

- ① 未曾有の災害への備えはできていますか。
- ② 防災士、防災アプリの活用は進んでいますか。
- ③ 県との連携は密ですか、いざというときに救済チームは派遣されますか。
- ④ 国から支援を受けて「防災のジオパーク」を進めてはいかがですか。

2、スポーツ交流、文化交流、鉄道で人を呼ぶ仕掛けで糸魚川を元気に！

(1) スポーツ振興、スポーツ交流について以下伺います。

- ① 市民や各種団体との連携や協働で成果、効果を出していますか。
- ② 相撲が脚光を浴びています。糸魚川ならではの交流人口増大に結びつく提案を市職員全員から出していただいて、理解を進めてはいかがですか。

(2) 文化振興、文化交流について以下伺います。

- ① 市民や各種団体との連携や協働で成果、効果を出していますか。
- ② 文化資源やアーカイブスの活用は常にアップデートされていますか。新しい時代を感じられるよう工夫をし、若者たちを主役に活動を進めていますか。

(3) 鉄道で駅とまちに人を呼ぶ仕掛けなどの取組について以下伺います。

- ① 鉄道で糸魚川へ訪れる人をどのように増やしていますか。
- ② 大糸線全線開通70周年への取組はいかがですか。
- ③ えちご押上ひすい海岸駅及び周辺整備は約束どおり進みましたか。
- ④ アニメ、スマホアプリ、イルミネーション等を活用して駅や鉄道利用者を増やす私からの提案は具体化しましたか、またこれからどうなりますか、伺います。

3、駅北子育て支援複合施設の必要性、市民・住民との合意形成について。

(1) 前回の一般質問にて、以下の複合施設の優れている点をよく検討して計画を進めてほしいと要望しました。市長は何を学び、何を取り入れていこうとしていますか。教育委員会や担当課にどのような指示をしましたか、伺います。

- ① 長野県塩尻市の公民館図書館等複合施設「えんてらす」。
- ② 富山県黒部市の図書館複合施設「あおーよ」。
- ③ 群馬県太田市の図書館・美術館複合施設「太田市美術館」。

(2) 市長の判断で、こどもの数が減っていく中での建設と運営に巨額の支出をしていくことについて、市民・住民と合意形成できましたか、伺います。

以上1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原 実議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、現在、県の地域医療構想に基づく医療再編の議論を進めている段階であり、適切な時期に説明会を開催するなど、市民周知に努めてまいります。

2つ目につきましては、当市の地理的条件から、救急医療を中心とした地域内で一定程度完結できる医療体制が必要であると考えております。

3つ目につきましては、近隣の看護学校等を調査し、検討してまいりましたが、現状では実現の見通しは立っておりません。

4つ目につきましては、現時点では取り組む予定はございません。

2点目の1つ目につきましては、地域防災計画に基づき、平時から備えに努めております。

2つ目につきましては、先日、開催いたしました防災リーダー研修に防災士からご参加いただき、市内の資格取得者の掘り起こしを行っております。

防災関係のシステムにつきましては、防災以外での利活用も含め、庁内で検討を行っております。

3つ目につきましては、災害発生時には、チームにいがたや他県の自治体、また、国の緊急災害対策派遣隊などによる支援体制が整えられております。

4つ目につきましては、庁内関係課が連携し、防災教育を行っております。

2番目の1点目の1つ目につきましては、競技団体やスポーツ協会、スポーツ推進委員などと連携し、スポーツフェスティバルや駅伝競走大会などに取り組むことで、生涯スポーツへの理解や参加者の交流促進につながると捉えております。

2つ目につきましては、様々なスポーツ活動が市内外の方との交流に寄与していると考えております。

2点目の1つ目につきましては、博物館やフォッサマグナパークでは、来客数が好調であるとともに、木地屋シンポジウムやヒスイシンポジウムなどのアンケート結果では、満足度が高くなっていることから、成果が出ているものと捉えております。

2つ目につきましては、ホームページやSNSによる情報発信に努めております。

3点目の1つ目につきましては、北陸新幹線敦賀延伸を契機として、大糸線では、沿線自治体や事業者などと一体となって利用促進に取り組んでいるところであり、えちごトキめき鉄道では、ラッピング列車など鉄道に親しんでいただく取組なども進めております。

2つ目につきましては、実施に向けて検討してまいります。

3つ目につきましては、地元の意向を踏まえながら、対応いたしてまいります。

4つ目につきましては、スマホアプリのキャラクターパネルを自由通路に設置しているほか、能生駅では、能生商工会女性部の皆様から、毎年イルミネーションを設置していただいております。

3番目の1点目につきましては、事業者との協議に当たり、参考とさせていただきます。

2点目につきましては、説明会や広報紙による周知、アソビバの開催、事業者選定に係る公開プレゼンテーションなどを通じて、合意形成が図られているものと捉えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

では、再質問に移ります。

医療に関しましては、6月にも私は一般質問させていただきまして、課題出しをしております。半年経過いたしましたので、半年前は、まだ検討中だったことも、そろっと結論、お答えをいただきたいというふうに考えているところでございます。

以下、具体的に伺ってまいりたいと思います。

糸魚川市民は、医療の確保について、ずっと不安があるわけです。その一方で、地域医療構想や

上越地域の医療再編について知らない市民は多い。それは、市長もお分かりかと思います。市民と、5年後、10年後の糸魚川地域医療体制を共有できているのか、もう一度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ご承知のとおり糸魚川市は、地域医療構想という今、この上越圏域の状況に、県のリーダーの下に入っております。と申しますのは、やはり人口減少から起きております、この各医療施設の経営が厳しい状況にあることと、やはりこれから人口減少から起きるいろんな課題に対して対応していく地域医療が大切になるということから入っているわけでありますが、糸魚川市といたしましても、姫川病院が閉院して以来、医療フォーラムを行いながら、今の当市の医療の現状などを市民の皆様方に説明させていただいておるわけでございます。それで全て足りるとは思っておりません。これからの医療を考えますと、市民の皆様方にしっかり知っていただくことが必要ということで、また、広く市民に周知していくことが必要と捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

今週初めの2日、私は糸魚川法人会主催の講演会に参加をしております。「上越圏域における地域医療構想について」と題して、新潟県福祉保健部地域医療政策課政策企画員の市橋様、それと「糸魚川市総合病院の現在と将来の姿」と題して、糸魚川総合病院の山岸病院長様より、最近のデータを分析しての貴重なお話を聞くことができました。これまでとは違う糸魚川の医療の形が提示され、開設されたものと受け止めています。特に地域の基幹病院における経営と雇用という一番大事なところ、糸魚川総合病院は、大変に厳しいと受け止めております。この状況と市民生活への影響について、市からの情報を市民に出していると言えるかどうか、その点を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

おはようございます。

今ほどのご質問にお答えいたします。

市民に説明ができていくということでございますが、必要な情報は、タイミングを見て、出させていただいているつもりでございます。

ただ、この情報につきましては、まだなかなか地域医療構想の議論が進んでいなくて、糸魚川総合病院の将来の姿というものがはっきりと見えてない状況ですので、なかなか市民にはっきりとお伝えできていないのが現状だというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

半年前もね、同じだったんですよ、そのことはね。もちろん県がね、今示している地域医療構想、その中の上越圏域、中で基幹病院がどうなったかっていうことが、県が、まだ明らかにしていないので、市としてもそれについては言えませんという、半年前と一緒になんですよ。これ、いつになったら明らかになるか。12月にはその辺明らかになるっていう話だったんじゃないですか。それをね、県のほうが示さないからと言ってるだけで、そうですかって私たち聞くわけにいかないでしょう。この半年の間に、糸魚川総合病院の経営状況が厳しくなっていて、支援をとということで、その要望が出され、知事もようやく支援していくっていう話になったけども、これ大きな動きだし、市民にとってみれば大きな不安ですよ。その点、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院につきましては厚生連病院でございまして、公的病院ということで、公立病院ではございません。そういう中で、民間の経営の中で、この地域医療を担っていただいております。そして、厚生連病院は、県内で11の病院を運営いただいております。そういう中で、やはり我々といいたしましても、経営を全て把握できるわけではございません。

しかし、そういう中で、今非常に厳しい経営であるということは、その地域の、やはり必要な医療を担っていただいているから、なっていると捉えております。それはどういうことかといいますと、経営がうまくいくという形には、やはり患者さんがたくさん来て、そして収支が合っていけばそれでいいわけですが、人口減少であったり、そしてまた、非常に厳しい医療の携わっているスタッフが厳しい状況の中においては、非常にそういった経営が厳しくなるということは、そして、診療報酬が決まったものしか頂けないわけですが、赤字になれば、やはり収支に合う診療報酬をもらえばいいんですが、それはできない状態の中で進めていくということは、非常に人口減少の中においては、厳しい環境になっておる部分があります。そういうのをやはり我々考えて、全てこの県内は、安心して住んでいける地域医療を担っていただきたいというお願いを県とやってまいりました。それぞれの市において環境が違う、ばらばらでは困るということで取り組んできたわけですが、そういう中で、今、県内の7診療圏域の医療構想を進めていくという中で、上越圏域もその中に入ってきておるわけですが、県がリーダーシップを取っていくのは当然であります。しかし、地域の医療者の皆さんと連携を取りながらいかなければ結論は出ないわけでありまして。上越圏域におきましては、県立病院、そして厚生連病院、そうした各診療所の皆様方との協議の中で決まっていくものと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

市長がね、厚生連のほうの病院の関係都市の市長のリーダーでおられるから、今のようなご認識の下に様々お考えになってるというその点はよく分かるんですけども、私たち糸魚川市民は、まず、この糸魚川市で、身近なところの基幹病院で今までやられていた手術とかね、治療がね、やれなくなってしまうと。その不安とかね、じゃあそれに対してどういうふう to それを補っていただけるかというところですよ。だから、新潟県の中での均一な医療サービス体制ですとかを知事に求めたところですよ、糸魚川と新潟と長岡と上越では、もう全然状況が違うわけじゃないですか。糸魚川市の場合は、特に人口減少が著しくて、それに合わせて医療機関もダウンサイジングをせざるを得なくて、その中で、効率的な病院経営を行うにはどうしたらいいかということを今考えたわけですよ。で、今まだ決まってはいいないけども、今までやれていた、そういう手術ですとか救急対応はね、上越市のほうに考えられているところの基幹病院の機能に委ねるというふう to 方向性が出てるんじゃないですか、違うんですか。糸魚川の中で必要な医療というのは、そういった救急対応や手術の部分も含めて大事じゃないかということで、私、半年前にも聞いて、今はそれはやれていると。この先、また、医療体制の中で検討していきたいというお答えをいただいたから、半年たった今、それはどうなったかということを聞いてるわけなんです。新潟県全体の話はね、新聞読めば分かりますよ。私がここで聞いているのは、糸魚川の2年、3年、5年先の医療体制ですよ。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく今、議員ご指摘のとおりであります。それを今、上越圏域の医療構想の中で取り組んでおるわけでございますので、その中で糸魚川市といたしましては、どういう診療科目が絶対必要なのかというのをしっかりと定めていかなくちやいけないし、その中で主張していかなくちやいけないと思っております。

先ほど言いましたように、なかなか進まないというのは、やはり医療というのはそう簡単にはいかないところがあるわけでございますので、結果としては、私はそう簡単には出てこないと思っております。それまでの間、糸魚川はしっかり、今ご指摘の点については備えていかなくちやいけないと思っておる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

思っている次第であるということですが、その中身が分かんないから、私こうやってしつこく聞いているんですよ。

先日のその法人会での話の中で、県の市橋さんは、糸魚川圏域だけ、糸魚川総合病院だけで医療対応はできないということで、それを前提とした病院経営をしていくしかないということまでおっしゃってるんですよ。正確なところは、もう一回ご確認いただきたい。

それから、糸魚川総合病院で急性期医療と回復期医療の両方への対応はできないということで、ならばどうしたらよいかといったところを考えているんだと。そして、上越圏域の病院開設者同士で話し合って、役割分担をすることを県は早く進めていきたいということをおっしゃってるわけですよ。もうその状況にあるわけ。それを今日、私は説明いただいて、糸魚川市はどうするんだということを市長からお話を伺いたかったわけですよ。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

何度もお答えいたしておりますように、今その検討を進めているところでございますし、やはり糸魚川でどうしても必要な医療を続けていきたいといったときに、医療構想の中でどう捉えていくかということになってくると、そうなってくると、糸魚川市独自で考えていかなくちゃいけないところも出てくるのではないかなと思ってる次第でございます。それを先に我々は出すわけにいかないと思ってます。今の上越圏域の医療圏構想の中でしっかり位置づけしてもらいたいというのが我々の希望でありますので、それを主張していきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ちょっと観点を変えましょう。

これは、糸魚川総合病院の山岸文範病院長さんのお話です。

病院では、改善策を出して実行していると。経営への改善策ですね。6億円の赤字を改善してきたと。来年は、ダウンサイジングの補助金は入らない。そして、先ほど市長もおっしゃいましたね、診療報酬、価格は自ら変えられないと。病院単独での黒字化はできない。ほかに病院収入を増やすことは、市は考えているのか。患者7万人が5万人となり、さらに赤字となっても続けていかなければいけないのが糸魚川総合病院だと思いますと、病院長がおっしゃってるわけですよ。どうしていくのかということをおね、投げかけられたわけです。一生懸命考えて改善してる、けれども、来年はもう危ないんだということを病院長はおっしゃってるわけですよ。だから、糸魚川総合病院だけで、もう経営は立ち行かないってことまでおっしゃってるように、私には取れましたよね。これに対して市はどうするかですよ。県の地域医療構想がどうこうって話じゃないでしょう。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ですから、市は、糸魚川総合病院と連携をしていかなくちゃいけないということと、もう一つ、糸魚川総合病院は、糸魚川総合病院だけで成り立つことはできないと思っております。県内の厚生

連という大きな組織の中にあるわけでございまして、糸魚川だけで黒字になっても、他の厚生連病院が赤字だったら、もう完全にアウトでございますので、そういったことにならないようなこともしなくちゃいけない。そしてまた、今、糸魚川独自で、その医療構想が進むまでの間は、現状をどのように守っていくのか。それをやはり守っていくとしたら、診療報酬で賄えない部分は、行政で賄うというか、公的にやはり資金を導入しなくちゃいけない状況もあるわけでありますので、その辺は、やはり糸魚川総合病院としっかりと連携を取っていくということで、今進めている状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

繰り返しの答弁なんで、どういうふうに向いたらよろしいでしょうかね。糸魚川総合病院あつての糸魚川の地域医療ですよということから、じゃあどのような支援をしていくかですね。でも来年は厳しいと言ってるわけですよ。そしたらそこに、どのような財源の手当をしていくかというところですよ。1,200万円の話がありますが、それで済む話ではないということで、それは市長もおっしゃってます。この先どのような形でね、糸魚川総合病院を残すのかということに少し踏み込んでご答弁をいただきたいわけですが。回復期医療だけの病院であれば、これは経営が成り立っていくところもあるよと。

ただ、急性期医療がないと、病院としての収入というのは低いので、回復期だけを糸魚川に残すというと、今度は急性期がやれないからという、いろんなそういった問題があるんで、そこのところどうするかなんですよという話ですよ。これはあれですか、糸魚川総合病院のほうと糸魚川市とは、そういう話というのはしてないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

残さなくてはならないということでやってるから、今の私たちは苦勞しておるわけでございますが、やはり先ほど言いましたように、糸魚川総合病院だけを残す、残さなくちゃいけないことは残さなくちゃいけないんですが、そこだけでは、やはり存続できないということで、県内の厚生連病院、そして、今それをやはり支えてるのは県立病院と合わせると、県内の医療の4分の1を担ってるわけでございますので、県もやはりしっかりと支えなくちゃいけないということで、県と今話を、協議を進めておるわけでありますので、そういった大枠の中でやっております。糸魚川総合病院は残さなくちゃいけないってのは、当然であります。各診療所の医師会の皆様方におかれましても、高齢化が進んでおるわけでございますので、糸魚川総合病院がしっかりと公的病院となるように、私は残していかななくちゃいけないと考えている次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

糸魚川総合病院が公的病院となるために努力を惜しまないということですけど、もうちょっとその辺、具体的に説明願えませんか、課長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今大枠の中でしか分からない、進めない状況の中で、糸魚川はどうするのだというのは、当然、大事なわけでありますが、そこだけで、これはやはり進めるわけにはいかないと思っております。それまでの間は、やはり現状をいかに確保しながら、現状維持を進める中で、そういった県全体の医療構想の中で、糸魚川はどうなっていくかというのをやはり進めなくちゃいけない状況の中でございまして、具体的に、あれはどうの、これはどうのという話ではないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

半年前も聞いたんですよ。あれはどうの、これはどうのね、細かいとこの話すべきではない。いやいやそうじゃないんですよ。もう県の中では1つの構想があって、上越圏域の中では、中核病院はこのような形で、そして糸魚川はこういう形でということの、いわゆるイメージみたいなものというのはできてると思うんですよ。糸魚川に急性期のものをですよ、今までどおりやろうと思っても、医者は来ないんじゃないかってことを言われてるわけですよ。看護師は、慢性的に不足してるわけですよ。そういった中で、糸魚川総合病院はなくせません、残します、必要な医療はやりますと言ってもね、やれないからどうするかということを上越の中での構想としてもう一回考えて、早くそれを進めることが、糸魚川総合病院をベースとした、これからの糸魚川市民のための救急やら、いろんな病気を治してくれる拠点としてなっていくんじゃないかというところ、そこを今明らかにしていただきたいということで、半年前に出していない結論を、検討した結果を今聞かせてくださいというふうに私申し上げてるわけです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も同じでございました。我々もやはり早く結論を出して、早くそういう方向に向かっていきたいと思っておるわけでありまして。医師不足、看護師不足、そして、糸魚川でなくてはならない診療科目があるわけでありまして。それがなくなったら大変でございます。そういったものを具体化させたいために進めておるんですが、なかなか進まないというのが実情でございます。今ほど議員ご指

摘のように、新潟県内の、今、新潟県内といいたしましょうか、これは全国同じでございますが、地方都市では、やはりこの中核を担っている各病院は、ダウンサイジングをしなくちゃいけないというのが、大枠ではそういう形にはなるとんですが、そう簡単にはならない状況でありますので、それをいかに進めるかというのが、県でもありますし、我々、各市町村がどういう公的な病院を支えていくのかというのは、やはりしっかりと結論が出ないままに進めるわけにいかない部分があります。しかし、それまでの間、今経営が厳しくなってるのを支えていかななくちゃいけないというのが実情でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

市長、頑張ってください。半年間たってね、同じ答弁ってのはやっぱり不安ですよ。市長も、自分の政策の一丁目一番地は医療だというふうにおっしゃってる。市民の命が大切、病院はなくせない。それはもちろんそうなんだけど、今この局面において、市民に対して糸魚川の、この厳しい医療の現状をちゃんと伝えて、そして5年後先、何とかこういう形に持っていくますと、そのためには、医師、看護師確保をはじめとしたスタッフの確保や、それから何といても財源ですよ。これをどうしていくかということを示す必要があるんじゃないですか。市長、県へ行って県知事とか、あるいは国に行き、そういう支出をしていただいけそうところへの要望活動というのはされてると思うけど、その辺の状況をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

何度も申し上げておるとおり、糸魚川の地域医療というのは、今、糸魚川総合病院でしかないわけでございますので、これはしっかりと今の支えていただいている地域医療を守っていききたいというのがやはり一番の基本であります。そういう中で今、県も人口減少の中に起きておる各医療圏域の、これからの医療をどう捉えていくかというのも、今そういう、県の考え方あるわけでありまして、それを併せて7圏域の医療構想を進めていきたいということで入っております。それがなかなか結論が難しい問題で、なかなか簡単にはできない部分があります。それまでの間であっても、我々は、今厳しい厚生連の経営の中で支えていかなきゃいけないと思っておりますし、やはりそういったところをしっかりと支えながら、今そういった県の構想に入っていってるわけでありまして。早く結論が出ればいいんですが、出なければ、それまでの間もやはり糸魚川市といたしましては、糸魚川総合病院としっかりと連携を取っていかななくちゃいけないと思っておりますし、医師確保、看護師確保も同じでございます。それは今までどおり進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

すいません、もう一つ忘れておりました。国に対してもそうでございます。やはり国に対しても同じ今地域、地方では大変な状況に今、現象が現れとるという話をしっかりと伝えております。厚生労働省しかり、総務省しかり、非常にそういったところをご説明させていただくと、やはり国のほうも把握はしてるわけですが、なかなか難しい問題であるということの中においては、なかなか結論をいただけない状況でございます。

そういう中で、今新潟県は先駆けて進めておるのは、やはり前健康福祉部長が非常に積極的に捉えていただいておりますので、そういうことから上越圏域が医療構想に入っている状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

同じことの繰り返しの説明なんですけど、要は、糸魚川市民に現状の危機感を訴えながら一緒に、市民と一緒に糸魚川の医療をなくさないように進めるということができるかどうかということです。それについて、私は、一個一個具体的に伺ってるつもりなんだけど、具体的なご答弁がいただけないもんですから、繰り返し繰り返しになってますけども、国・県のほうには要望しているよということは今聞きました。

人と金の問題があると思います。それで、糸魚川の医療人材の確保が大変厳しいと。これはうわさですけども、糸魚川総合病院からの医療人材の流出が顕著になっているというふうにも聞かれます。運営の基本は人材でございますから、人がいなければね、とにかく病院の運営できません。そして、その人材確保の基本は、財源になるわけです。どのように財源を確保していくのか、糸魚川市の一般会計からの支出だけでやっていけるのかどうか。そういったところは、もうどうに考えていなければいけない段階じゃないですか。そこのところはどうなっているのでしょうか。当初予算と補正予算のやりくりで抜本的な対策となっているのか、あるいは、もっと別の形での財源というものを早急に引っ張ってくる必要があるのかというところ、そういったところをお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、議員ご指摘のように、糸魚川総合病院に対しましては、非常に糸魚川市と連携をさせていただいております。医師不足、看護師不足に対しては、市独自の対応をさせていただいてる部分がございます。そして、それが非常に額が増えてきている部分がありますので、そういったところに関しましては、当然、糸魚川総合病院にやはり改革をしながら、そして、診療の基準をなるべく地域の要望に、不足がないような形に持っていただくようお願いの中で、糸魚川総合病院も苦勞いただいておりますし、そういう状況の中で県の支援もやはり必要ということで今動いて

る中においては、ようやく県も動き始めたわけでありますので、その辺もやはり我々は、もっとも
っと今の実情を訴えていかなくちゃいけないと思っております。厚生連におきましても、糸魚川総
合病院の経営と、そして、県内の厚生連病院全体の経営というのもありまして、我々といたしまし
ても、そういった、やはり民間の中ですから、全て踏み込むわけにはいかないわけでありますが、
そういう連携の中でありますので、我々といたしましてもしっかりとその辺を把握するように今努
めている状況でありますので、厚生連としましてもその辺は、本当の、確かな数字を出してこい
という話をしながら、我々はどうすべき、いいのかというのを進めてるわけでございまして、今年に
入ってから、そういった状況が物すごく急激に変化してるわけでございますので、我々はそれ
に対して、今非常に苦慮してる部分はございますが、しかし、だからといって、その医療施設を損な
うようなことをしてはいけないということで今取り組んでおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

国・県からの支援は必要ですよ。

ただ、そこへの依存ということで時間がかかるうちに、病院の機能が地域からなくなったらどう
するか、病院の機能が糸魚川地域からなくなったらどうするかということを国会議員や県会議員と
その危機感を共有していますか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

当然、県会議員、国会議員には、その旨お伝えいたしておりますし、その都度、やはり新潟県に
要望に行くとき、また、国の各省庁に要望に行くときには、議員の皆様方にも同じ要望をさせてい
ただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

総務省あたりにですね、地方財政計画の中で、特別交付税で医療問題の配分があると思いますね。
これを求めていかなければならないという中で、地方交付税を活用して、総務省からの支援を受け
る形を早く進めるべきだと私は思うんですけども。いろいろとね、財政的なことは、また別のこと
があるかもしれません。

ただ、どこに財源を求めるかといえば、やはりそこなんではないかと。これは、やっぱり市長が
県会議員や国会議員と一緒に動いてですね、それをまず見つけてくるということが大事だと思うん
ですよ。今は12月でございますけども、いかがですか市長、もう一つ皆さんと連携を取って頑
張っていただきたいし、いいニュースを市民にもたらしていただきたいと思うんですけど、いかが

ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

7月、6市の市長と、やはり国のほうにも要望に行っております。それはやはり、今は交付税で頂いている以上に頂かなければ、今地方の医療は非常に逼迫しているという話を強く申し述べさせていただいてまいりました。県選出の国会議員の皆様方におかれましても、その辺はやはり強く国のほうにも当たっていただいております。県といたしましても、やはりそういったところを捉えていただいて、県もやはりそういった危機意識を、県立病院だけではなくて公的病院においても同じような支援をしてくれという強く要望させていただいておりますし、県会議員におかれましても、その旨を県のほうに強く言っているという聞いております。

7月以降も、いろいろ活動させていただいておりますが、まずは7月に国のほうに初めて要望に行きました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

医療の確保は一番の政治課題であるという観点から、もう少し質問を続けますけども、医療の縮小化は、人口減少にさらに拍車をかけることになる。どう対策していくかだと。これは、議会も一緒に考えて提案し、課題解決に最大の努力をすべきことだと思います。当然、財源の問題についても考え、提案していかなければいけないことだと思います。この点、市長の認識を伺いたいと思います。

それと、医療確保の財源ができないならば、ほかの事業をやめてでも医療を確保すべきという声は、市民のみならず、役所の中にもあります。例えばスキー場、これをやめても医療を守ってという市民の声があります。医療確保と財源確保は、市民の理解と対応、で、そしてまた、次の選挙での論点になるとも言われています。市長の認識を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

医療環境が非常に厳しくなったのは人口減少というような、大きくそういうような説明の中でいたしとるわけでございますが、決してそれだけではないと思っております。やはり研修医制度の変更が、やはり大きく関わっておる状況ではなかろうかなと思っております。そういう中で、医師の偏在が顕著になってきている。そういう私は捉え方もあるのではないかなと思っております。

そして、やはり財源においては、しかし厳しい状況の中において一番市民にとって何が大事か、

それはやはり選択と集中の中で捉えていかななくちゃいけないわけでございますので、やはり市のこの行政運営につきましては、バランスのいいものでなければいけないと思っております。市民にとって、そしてまた市民の将来にとって何がいいのかという、そういったバランスが大事だと思っております、偏った形では、やはり市民の皆様方においても市民生活に影響が出るのではないかなと思ってる次第でございますので、その辺はやはり考えながら取捨選択をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

私の質問にはちょっとお答えいただけてないようにね、感じます、申し訳ない。一般的な話ですよ。バランスがいいかどうか、それから何を優先するかどうかということをも市民も一緒に考えてくださいねということになると、やはり市民と今の糸魚川市の医療の状況を共有して考える場をつくっていかなくちゃいけないわけですよ。それをどうするかということと、それからやはり、ほかをやめても医療を残すという一つの決断が、市長には求められてきていますよということを私は申し上げてるわけですね。

では、そろっとですね、この医療のことについての私なりのまとめをちょっと申し上げてみたいと思います。

これは、仮に上越の医療の再編が進んだ後のことですけども、糸魚川にも救急や、あるいはカテテルですとか、手術ができるようなものを残していきましょうという前提になっていますけども、まず、予算的な話ですが、普通交付税では算定基準が決まっているので、特別交付税を活用して、早く動いて、取りあえずでも危機的状況への対応を行い、市民に必要な医療確保ということで、市民に理解していただきながら、地域医療構想を進めて、県からの支援を受けて、基幹病院の分院を糸魚川につくってもらうよう早く進めていく。

また、糸魚川の医療を市民が支えていくにはどうすべきかを市民それぞれで考え、行動をしていただく。場合によっては税率アップがあっても、それは命を支えるための税であることを市民に理解してもらうことも必要であるといったことだと思っておりますけれども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

基本的にはそのとおりだと思っておりますが、県からも支援してもらうということじゃなくて、私は、県と一体となって地域医療を守っていかななくちゃいけないという考えであります。県から支援してもらうじゃなくて、県もやはり県内の市町村の医療をしっかり守っていかななくちゃいけない状況にあると思うわけでございますので、県立病院だけを守っていけばいいということではないと思っております。その辺は、やはりしっかりと地域医療構想の中で伝えていきたいし、そういった形に持っていきたい。そういう中で糸魚川は、全て同じような上越圏域は一緒かということ、糸魚

川と妙高市もちょっと違うだろうし、また、中心の上越市も違うだろうし、そういったところをしっかりと地域の地形的な状況も勘案しながらつくっていききたい。数だけの問題ではないと思っておりま。そういったところをしっかりと主張しながら、糸魚川の必要な医療の確保を守っていききたいと思っておりま。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

市長、私が言ったことを、話をすり替えないでくださいね。というか、ご認識がどうなのかね。県立中央病院だけを守っていけばいいなんて、私一言も言ってませんよ。上越の中の再編を行ったその先にね、上越には中核病院的な機能のあるものを持って行って、そこに専門医を集めて、高度な医療がやれるようにしないと、糸魚川市民の命も助かるものも助からなくなる可能性が出てきますよねということでは申し上げてきたけども、何も県の病院だけを残してくれって言うわけじゃないし、私が一番言いたいことは、糸魚川でやることはできるだけやっていただくように、全体構想の中で早く位置づけをして、それを早く進めていただいて、財源も確保していただきたいということを申し上げているわけですよ。

また、これは次の一般質問でも伺いたいと思います。

時間がなくなってまいりました。防災対応ということで、伺いたいと思います。

私、7月10日に早稲田大学の全国地方議会サミットへ伺いまして、そのとき片山善博先生から、議会はこういうところをチェックすべきだということでご指摘をいただいたので、それを基にお話を少し伺いたいと思いますけども、災害時の責任者はトップだが、片腕となって専門知識を持って働く幹部職員、側近はいるのか。また、対応できるのかということを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

おはようございます。

お答えいたします。

当然トップは市長でございますが、その側近というのも必要です。そういった中で、側近といえ、まずは副本部長の副市長、あるいは危機管理監であります総務部長、あるいは消防長です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

消防長にいま一度伺いますが、県の対応が重要じゃないかということで申し上げて、市長からお答えいただきましたけども、救済チームの派遣等の対応について、いま一度詳しく教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

まず、県につきましては、災害が発生した際には、市の対策本部へリエゾンを派遣いただきます。そこで、市の対策本部で県と市と連携いたしまして、災害の規模、必要に応じまして派遣チームを派遣調整していただいたりといったようなことをしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

残された時間の中で、質問してまいりたいと思います。

3番の駅北子育て支援複合施設の必要性、市民、住民との合意形成についてお願いいたします。

1番のほうでは、私からは、この施設いいなと自分で見てきて思ったものについて上げているわけですが、学ぶべきことがあったと思います。それは、運営での工夫とデザインのセンスだと思うんですが、担当課ではいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

おはようございます。

お答えいたします。

こちらの施設につきましては、3施設とも駅の近くにあるということで、当市の計画しているものと似たような形の施設かなというふうには認識しております。そういった中では、やはりいずれの施設にも共通して感じましたのは、出入りを含めた、そういった利用のしやすさでありますとか、居心地のよさといったものがあるというふうに感じております。私どもも、今、整備のほうの計画を進めておりますので、そういった部分を含みながら、今後、対応してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

設計、建設、運営ということで、建物というのは造られ、その後、市民に利用されるわけですが、それをどのように進めていったかです。それぞれの施設、市民とどのように合意形成をしていったのかを調べましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

「えんてらす」のほうにつきましては、私も現地のほうを視察をさせていただきまして、その状況等も確認をさせていただいております。こちらの施設については、市のほうの直営で行われているといったところも確認をしております。今回、私どものほうでは、DBOという形で運営も一体的にということで進めさせていただいておりますけれども、それぞれの施設の運営の仕方を、やはり参考とすべきところはあるというふうには思っておりますので、今後、またさらにですね、そういった調査等も含めながら、対応を検討していきたいというところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

次、（2）ですね、市民・住民との合意形成です。

市長から合意形成できましたというふうなお話でしたが、実際、市民から私が聞いたご意見を少し紹介したいと思います。

事業者の方で、その方のお店に来られた方たちから聞いたものだということです。店番を1日して、あの施設のことを知らない人が半分、知ってる人は全員反対でしたと伝えておきますというメールを頂戴しました。庶民のお店、店主ということで、お名前をいただいています。

それから、私が建設地の近くに住む方から聞いたものですが、何十年か前のように地域に子供がたくさんいた頃なら、いざ知らず、今は公園で遊ぶ子供もいないのに、そんな大きな遊戯施設を造るのはナンセンスです。無駄になるか、造ったとしても一部の人たちだけが使うような施設となったり、中で何をやってるか分からない施設になるのではないですかと。少なくとも子供がいらない私には行く用事もないし、何かイベントをやられても行きづらいところでしかありませんということなんですよ。

こういう意見がやはりあるんですよ。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

様々なご意見もあろうかというふうに思っております。

ただ、私ども、これまで駅北のまちづくり戦略等も踏まえて、この設置施設の整備計画を進めてまいりました。子供は減っていく中ではありますけれども、なくなるというわけではございません。今いる糸魚川市の子供たちのために、しっかりと安心して子育てができる環境をつくっていき

たいということで、この施設の整備は進めさせていただいているというところでございます。

また今後、計画、今後、事業者のほうが固まってまいりますので、そういった中で市民の皆様にも丁寧にご説明をしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

何年も前からね、市民の皆様にも丁寧な説明をしてまいりたいとおっしゃってるんですよ。ずっと来ました。議会では、その折々にご説明いただいているんですけども、何ていうんですかね、その市民の姿が見えないんですよ、私には。それを心配しています。それで、駅北子育て支援複合施設は、運営方法、それから一般会計からの高額の支出など、いろいろと問題があるんじゃないかということは、これは私に近い市民からご指摘をいただいているところです。そういう方や、先ほど私に意見を言ってくださった市民に対してですよ、ちゃんと納得いただくようなことがなければ、これは市民との合意形成ができたとは言えないんじゃないですかね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

議員おっしゃるように市民との合意形成といったところは非常に大事だというふうに思っております。今後もですね、議会でのご説明をはじめ、しっかりと対応していきたいと思っておりますし、議会に説明させていただいた内容を市民の皆様にも説明させていただくという形で今後、対応してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

説明はね、いつもいただいているんですよ。委員会の中でも意見を申し上げたり提案しているでしょう。でもそれらはね、ほとんど聞いていただけてないような気がするんです。もちろん、前へ進めてくださいという意見を述べられる議員の方もおられますしね、行政と共にいいものをつくっていくということは大切ですけども、今ちょっとそういう感じがね、私には受けられないんですよ。そういうふうには感じられないんですよ。で、私、こういうこと言うと、市長にこの前、田原は建設に反対してるとかというふうには言われたんだけど、私、反対してませんよ。いいものを造りましょうよと。

ただ、DBOはブラックボックスで分かりにくいですから反対したんですということなんですけど、市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

手法的については、皆さんの意見を聞く中で進めておりますし、我々といいたしましても、やはり一番いい方法ということでご提案させていただいたわけでございますので、確かに田原議員のところには、そういうふうなお言葉もあったのかもしれませんが、私のところには、逆に早く進めてほしいという声も来とる部分がございます。いろんな意見が私はあるのだらうと思っております。先ほどの地域医療もそうでございますが、やはり市民にとって、いろんなものが、必要なものがあるかと思うわけでございますので、やはりそういった市民に対して、また高齢者の皆様方や、またこの幼い子供さんたちのためにも、いろいろやはり進めていくことが、やはり行政の仕事だと思っておりますので、この施設についても、そういった形の中で捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

私のように意見を言う人間がですね、議員がですね、DBO方式でいかなものかと異論を唱えたことを、反対者というレッテル貼り等があるということもいかなものかと思うし、そういうことをしてもですね、市民が望む公共施設というのはできないんじゃないかと思うんですね。住民意見を聞かない計画、建設後も多大な運営費を支出することで市民の賛同はないと思います。

○議長（保坂 悟君）

以上で、田原 実議員の質問が終わりました。

次に、私が一般質問を行いますので、横山副議長と交代いたします。

暫時休憩いたします。

再開を11時15分といたします。

〈午前11時07分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○副議長（横山人美君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。〔5番 保坂 悟君登壇〕